

【根釧西部森林管理署】

木造建築・我が署紹介！



根釧西部森林管理署庁舎

根釧西部森林管理署は、道東の拠点都市として、産業や観光の中心となつている釧路市に所在しており、釧路総合振興局管内8市町村の国有林約182千haを管理しています。管内には阿寒摩周国立公園や釧路

湿原国立公園、厚岸霧多布昆布森国立公園等の豊かな自然を有するとともに、過去の山火事等により荒廃した原野を再生したカラマツ大造林地パイロットフォレストも有しています。

新庁舎は、平成21年3月に竣工し、築50年と歴史を感じさせた旧庁舎とお別れをし、今年で13年目を迎えています。規模は木造平屋建て延べ床面積538平方メートルで、庁舎内には自然再生事業や森林環境教育の取り組みを行っている釧路湿原ふれあい推進センターも併設されています。



玄関ホール

庁舎は、道産木材を豊富に使用しており、大断面集成材として柱や大梁、間柱、小梁に134本約43立方メートルのカラマツ、内外装や屋根の下地、化粧梁にはカラマツやトドマツ、アカエゾマツ、広葉樹を使い、温かみのある事務空間を演出しています。



明るく清潔感のある事務所

カラマツ集成材は帯広・留辺蘂地域、カラマツ羽目板は厚岸地域・浜中地域、ナラのフローリング・床材は旭川地域、トドマツ造作材は釧路地域を産地としています。フェアウッド（伐採地の森林環境や地域社会に配慮した木材・木材製品）を使用しており、完成当時

は地材地消のモデル庁舎としてマスコミに取り上げられたところでした。

施工法は、柱や梁に鉄骨を貫通させ、エポキシ樹脂で固定させることで二方向ラーメンの剛接合による木質二方向ラーメン構造（サミットHR工法）を採用しています。筋違いや耐力壁を採用しないため大開口、大空間が可能となり、さらには、異形鉄筋を木材の内部に埋め込んでいることから、塩害にも強い工法を採用しています。



木質二方向ラーメン構造

また、木材の持つ美しさや柔らかさを表現するため、玄関ホールの天井には木製のルーバーにより自然光が入る設計としています。内装は、事務室内にはカラマツ集成材の天板を使用した木製書棚を設置し、

また、廊下はカラマツの腰壁、床はミズナラのフローリングで統一された温かみ感のある造りとなっています。さらには、会議室をスライドドアとし開放的な空間を演出しています。

庁舎の隣には釧路市出身の建築家である毛網毅曠（もづなきこう）氏設計の釧路市立幣舞中学校があります。また、敷地は釧路市街の高台に位置しており、南側に太平洋、北側には阿寒連山が一望でき、近くには天然記念物のヒブナが生息しシマエナガなどの野鳥が観察できる春採湖があるなど、市街地でありながら豊かな自然環境に恵まれております。



庁舎敷地から望む太平洋と春採湖